

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 若松 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

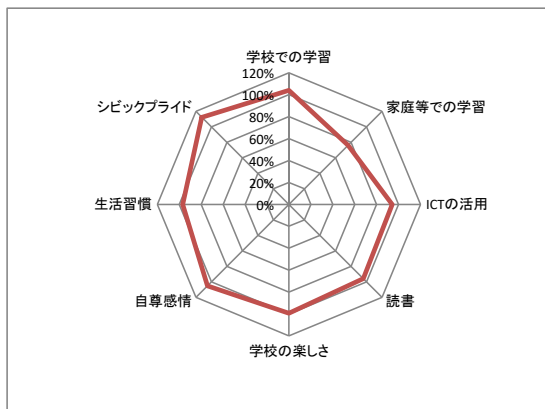
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」の領域では、全国平均をやや上回っていた。しかし、言葉の特徴や使い方に関する事項では、全国平均を大きく下回っていた。特に、知識・技能を要する問題に課題があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	「データの活用」・「数と式」の領域では、全国平均を上回ったり、全国平均と同程度であったりした。しかし、「図形」や「関数」の領域では、全国平均を大きく下回っていた。特に、思考・判断を要する問題に課題があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	$12(x/4 + y/6)$ や累積度数を求める問題。	
	努力が必要な問題	反比例で x の値とそれに対応する y の値を求める問題や、平行であることを同位角や錯角を使って証明する問題。	
英語	全体的な傾向や特徴など	各領域において、全国平均を大きく下回っていた。特に、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる短答式の問題に課題があった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる問題。	
	努力が必要な問題	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の問題を正確に書くことができるかどうかをみる問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>○授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていたと考えている生徒の割合が高く、全国平均を大きく上回っている。授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動もできている。しかし、学校の授業時間以外に、平日1時間以上家庭学習をしている生徒の割合が全国平均より低く、特に土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強をしている生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。授業以外の学習について課題がある。</p> <p>○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う生徒の割合が多く、全国平均を上回っている。実際に今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合も多い。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○教育相談と並行しながら、学習をする時間（若中学カタイム）を今後も継続して実施する。
 ○学習内容の定着や理解の深化に向けて、生徒が授業中、また授業以外でも主体的に学習に取り組むことができるよう、各教科でICT機器の効果的な活用や学習プリント・課題などの更なる工夫・改善を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○5教科を中心に課題（宿題）やAIDドリルを活用し、個人で選択できる課題を出すなど、自主的な学びを支援することで、授業以外における学習習慣の定着につなげていく。また、ご家庭にも、保護者会や通信等で調査結果や状況をお知らせし、家庭学習の支援をお願いする。